

バングラデシュ高等教育における国際交流推進の可能性： 政治化と質保証の観点から

上別府 隆男

1. はじめに

バングラデシュは、近年の経済成長の結果、かつての最貧国の1つから、いわゆる「ネクスト11」¹の一角を占めるほどに変貌を遂げ、2022年までに中進国になることを国家目標に掲げている。そのため、同国の高等教育は、経済の成長に伴い、急激な量的拡大を遂げてきている。1971年の独立当初は国立大学7校のみであったのが、2013年2月現在、国立大学36校、私立大学74校の計108校まで増加し、今後も新設が予定されている。学生数も2001年の国立大学9.2万人、私立大学2.7万人から、2011年には国立大学約183万人、私立大学約26万人へと激増している。2009年時点では、就学率8%（男10%、女6%）であった（UNESCO、2012）。急激な量的拡大は、社会や経済の要請に応えるべく国内の高等教育提供能力を改善し、海外への頭脳流出を弱める効果はあるものの、必然的に教育の質悪化を招いており、独立以来続いている高等教育システムの過度の政治化²という伝統も手伝って、改革の方向性が不透明である。

本稿では、現地調査に基づき、二大監督機関である教育省と大学補助金委員会（University Grants Commission : UGC）の役割、様々な高等教育の制度・仕組みを概観した後、実際の大学の運営における監督機関、諸制度・仕組みの機能の検討を踏まえ、今後の質保証を伴った国際交流推進の可能性を探る。

2. 高等教育行政・機関

(1)高等教育行政

¹ 2005年ゴールドマン・サックスが50年後（2055年）の世界経済でBRICS（Brazil, Russia, India, China, South Africa）の次に大きな影響力をもたらす潜在力を持つ国として名付けた11か国からなるグループ名。他の10か国は、イラン、インドネシア、エジプト、韓国、トルコ、ナイジェリア、パキスタン、フィリピン、ベトナム、メキシコ。

² 本稿では、「政治化」（politicization）を「諸活動が政治性、政治色を帯びること」と捉え、「高等教育の政治化」は、教職員や学生などの構成員が、大学の管理運営、教育、学習、研究その他の活動を国内政党の方針・政策や政治的主張に関連付けて行うこととする

バングラデシュにおける高等教育の監督機関は、教育省中等高等教育局と UGC である。教育省が最終の監督権限を持つが、実際上の監督は UGC が担っている。UGC は 1973 年大統領令第 10 号により設立され、委員は会長 1 名、常勤メンバー 5 人、非常勤メンバー 9 人から構成される。UGC の主な機能は、国立・私立大学の教育推進と調整、大学教育基準のモニターと維持、国立大学予算の必要性の評価、大学全般に関する政府への提言、という 4 点である。UGC は、政府、特に教育省に対し大学を代表する役割を持ち、国立大学の予算要求を査定し、それを政府に要求し折衝する。そして、確定した予算を政府から受け取り、それを国立大学に配分する役目を負う。私立大学に対しては予算を配分していないが、UGC は指導、モニター、規制する役割を負う。UGC は、このように、政府と高等教育機関の間の調整者（バッファー）としての位置付けにより、政府の高等教育機関に対する政治的介入を防ぎ、政府が高等教育機関の要求と直接に対応しないようにする効果を持つとされる。教育政策を策定するのは政府・教育省の役割であり、UGC は政策策定に必要な資料などを教育省に提供する。政府の政策の枠内である限り、UGC の高等教育の振興と開発活動は拘束を受けない。大学の学術面・運営面の自立性を守り、維持する役割を持つ (University Grants Commission of Bangladesh, 2008)。しかし、これらの建前論とは裏腹に、教育省の過剰な介入が、大学自治と UGC の仲介機能を妨害しているとの指摘もある (Alam et al, 2007)。現在 UGC の権限拡大案が浮上しており、「高等教育委員会 (Higher Education Commission)」を作る動きがある (University Grants Commission of Bangladesh, 2006)。

(2) 高等教育機関

大学の設置形態としては、国立と私立の 2 種類あり、提供する教育種別では、主に、一般教育、科学技術工学教育、医学教育、農業教育、遠隔教育の 5 種があり、その他、職業教育、マドラサ教育³もある。2011 年時点のデータでは、全体の学生数は約 209 万人であり、その内訳は、国立（一般の大学 18 万人 (8.6%)、国民大学 (NU) 約 100 万人 (47.8%)、バングラデシュ・オープン大学 (BOU) 約 65 万人 (31.1%)）、私立大学約 26 万人 (10.4%) であった (Bangladesh Ministry of Education, 2012)。

³ 正規の教育に並行するマドラサの高等教育レベルには、一般大学の 2 年学士課程に当たる Fazil (2 年制) と一般大学の修士課程 (2 年制) に当たる Kamil (2 年制) がある。

バングラデシュの国立大学はイギリス植民地支配の遺産であり、同国初の大学として植民地時代の1921年に設立されたダッカの全寮制大学である⁴。東パキスタン時代の1953年にはラジシャヒに第2の大学が設置され、1971年のバングラデシュ独立までに6大学（ダッカ大学、ラジシャヒ大学、チッタゴン大学、ジャハングルナガール大学、バングラデシュ工学技術大学（BUET）、バングラデシュ農業大学（BAU））が存在した。1973年の法令により、独立戦争及び1971年の独立に大きな役割を果たした国立大学は、特典として強い自治権を付与された。これが後に、国立大学の政治化に歯止めをかけられない事態を引き起こすこととなる。

その後、国立大学は増設が続けられ、現在は全国に網羅されているが、高等教育への需要の高まりと国立大学の収容能力の絶対的不足、そして、インド、イギリス、アメリカなど国外への学生流出を防ぐ意図から、1992年私立大学法が制定され、私立高等教育機関の設立が許可された。私立高等教育機関には2009年以前の政権で急いで承認され設置されたものが多い（Islam, 2009）。ダッカ大学をはじめとする国立大学は入学倍率100倍近くと狭き門であるため、低所得者層はNUやBOUに、中高所得者層は私立大学に流れる傾向がある。また、経済発展、中間層の拡大により、子供の海外留学、国内の私立大学費用を負担できる家庭が増加している。

国立大学・私立大学共通の問題点としては、学生の専攻分野が一般教養や人文科学に偏っているため競争が激しくなり、その結果、文系の就職率が悪化していること、理系においては教員不足、施設・設備不足などで質の低下を招いていると指摘されている。また、一般単科大学においては、授業当たりの学生数が過密でかつ教員が不足しているため、教育の質が非常に低く、ごくわずかの機関のみ良質の教育を提供しているとされる（University Grants Commission of Bangladesh, 2006）。大学の地理的分布としては、全国に設置されているものの、首都ダッカに6割程度集中し、第2の都市であるチッタゴンに1割、その他の地区に3割と、一極集中型であり、アクセスの公平性に課題がある。政府は2026年までに全地区（District）に国立大学を配置する計画を立てている。なお、卒業生が卒業してから就職するまでに要する期間は平均3年であり、長期化傾向にある（Islam, 2009）。

以上のステークホルダーの関係を図式化すると図1のとおりとなる。

⁴ 元タイギリス植民地時代の1878年、カルカッタ大学（現コルコタ大学、1857年設立）の附属大学として設立された。なお、バングラデシュの隣国ミャンマーにある現ヤンゴン大学の前身であるラングーン大学（1989年までの名称）も1878年カルカッタ大学の附属大学として設立された。

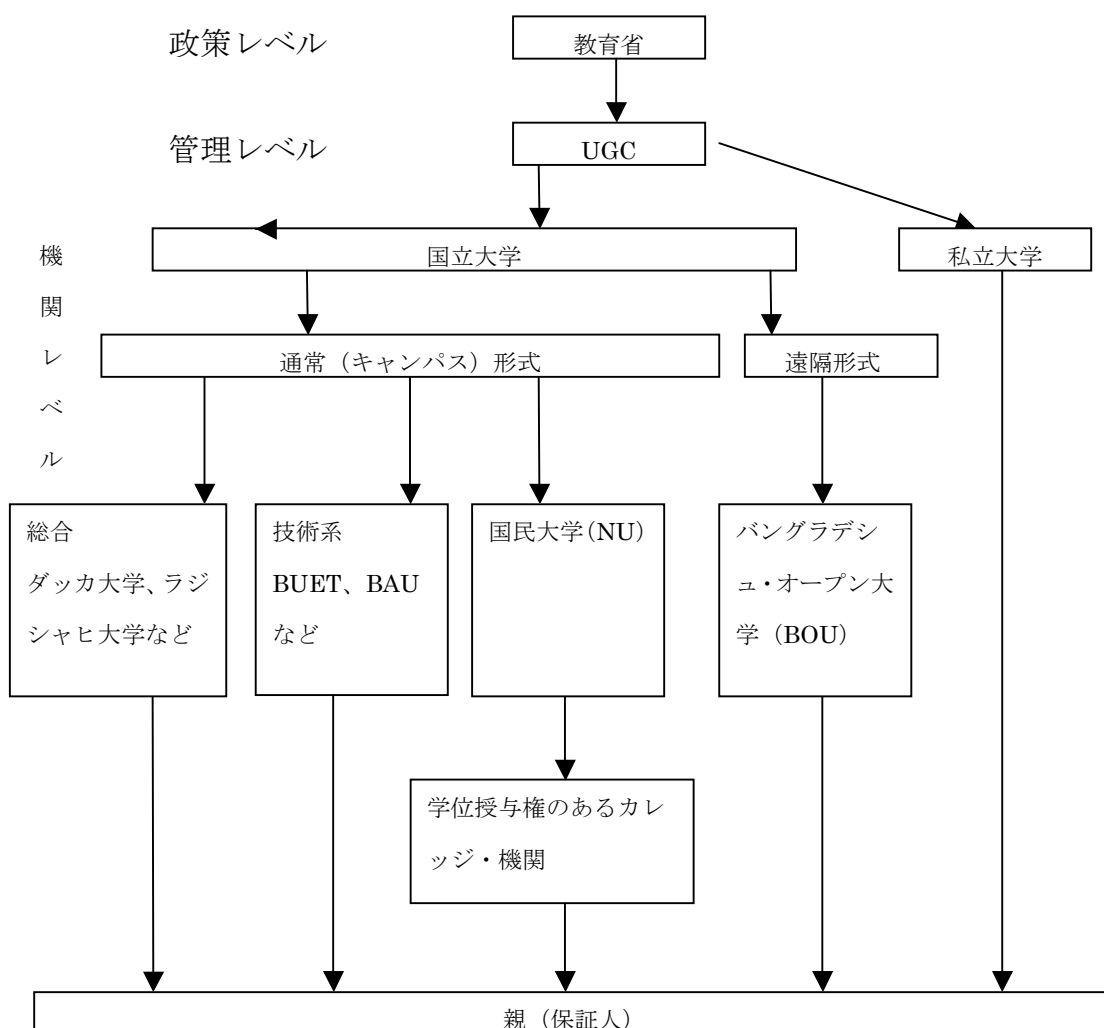


図 1：高等教育行政の仕組み

(3)国立大学

現在の国立大学 36 校の内訳は、総合（一般教育）大学 11 校、工学系 6 校、農業系 6 校、科学技術系 8 校、医学系 1 校、イスラム系 1 校、芸術文化系 1 校、国民大学 (NU)、遠隔教育専門のバングラデシュ・オープン大学 (BOU) である。国立大学は過去 4 年で 7 校の新設が確定し、現在新たに 7 校構想中である。今後の 14 校追加により 50 校になる予定である。NU は、学位授与の単科大学（カレッジ）認定及び規制機関として 1992 年に設立され、2,000 以上のカレッジを抱える。BOU も 1992 年に設置され、唯一の遠隔教育高等教育機関であり、貧困層の社会人を主たる対象とする（授業・試

験は金曜のみ)。

国立大学の予算のうち約 95%は政府から、残りの 5%は自己収入による。これまで補助の程度は増加している。全教育部門の予算に占める高等教育の割合は過去 10 年では増加したが、過去 3 年では減少している。国立大学は政府の予算にほぼ依存しているが、例外として、NU は政府予算は受け取らず、学生の在籍料と試験受験料から収入を得る独立採算制を採っている。また、BOU は、約 3 割を学生からの徴収で、残りを政府予算に頼っている。国立大学では、優秀な学生の教育ニーズに応えるため、過去 80 年近くにわたり学生の負担は月 0.12 タカ (約 20 米セント) である。これは、大学運営にかかる経費は年々増加しているものの、授業料値上げは、学生団体や野党からの抵抗で無理であることからきている。もし強行しようとするれば、学生の騒乱を招き、学外で政治問題化する危険をはらんでいる。教育予算のおおよそ 7 割が教員の給与・手当・年金などに使われ、大学での研究にはほんのわずかしが配分されていない⁵。大学運営にかかる経費が膨らむ一方で、政府予算は追いつかず、その一方で授業料は政治的要因から据え置かれている結果、国立大学はどこも慢性的赤字の状態が続いてきている。対応策として、寄付などからなる信託基金の設置、銀行からの借り入れなどで凌いでいる。

(4)私立大学

一方、私立大学を見ると、学生数は 2001 年の 27,245 人から、2011 年の 257,089 人へと約 9 倍に増加している (Bangladesh Ministry of Education、2012)。現在の 74 校に加え、15 校が開校準備中である⁶。

私立大学の教員は 6 割程度が専任であり、非常勤教員は国立大学の教員が担う。国立大学との違いとしては、提供科目が少ないこと、授業料が高く同時に教育の質 (設備やカリキュラムの面で) も高いこと、職業・キャリア教育に重点を置くため国立大学より就職率や就職後の給料が高いこと、2010 年私立大学法制定により私立大学は UGC の管理下に入り政治活動が禁止されたこと、スタッフの給与レベルが高いこと、などである。

私立大学の設立手続きは、UGC の審査、教育省の審査、首相の最終承認というも

⁵ 2013 年 2 月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。

⁶ 2013 年 2 月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。

のであるが、設立条件として、教育計画が UGC に承認されること、設立当初最低 2 学部を持つこと、各学部において資格のある教員が雇用されること、政府認定の銀行に一定額の保証金を納めること、カリキュラムとシラバスが UGC に承認されること、総定員の 5% が貧困層と成績優秀者に割り当てられること（「5%ルール」）、教員の給与と学生の授業料が明記されていること、教室などの施設が既定の面積を持つことの 7 つが課されている（University Grants Commission of Bangladesh, 2008）。

私立大学は、数が急激に増加したため質が十分保証されない大学も多く、国立大学・私立大学の質の違いは一概には言えない。有利な条件にある私立大学の地位向上が、いずれは圧力を持ち、国立大学を脅かす可能性もあるとの指摘もある。国内の政治に深く組み込まれている国立大学は有料化できないため、私立大学と今後どう競争していくのかが注目される。国立大学は政治活動が活発であるが、低い授業料と社会的名声でトップ学生を引き付けることには変わりはない。優秀な学生の一部は上記の「5%ルール」の下、私立大学で吸収されている。

3. 高等教育の諸制度

(1) 学位制度

学士課程の修業年限は通常（Pass）3 年間、優秀（Honours）4 年間であり、最長 8 年間まで在籍できる。卒業に必要な単位数は BRAC University（私立）の場合、英語専攻の 120 から建築学専攻の 201 までの幅があり、各学期（3 学期制）で 12 単位以上を履修する必要がある。また、GPA を使う大学が多く、2.0 あるいは 2.5 以上を維持することを課す場合が多い。Royal University of Dhaka（私立）では自分の専攻外に 30 単位が必要である。

修士課程の修業年数は、3 年制学部卒業生の修士課程は 2 年、4 年制（優秀）学部課程卒業生の修士は 1 年であり、3+2 あるいは 4+1 と、いずれの場合でも修士取得には 5 年かかる。修了に必要な単位数は最低 36 単位である。

博士課程には明確な要件単位数は記載がないものが多く、学位記に研究業績について記載される。

(2) 単位・単位互換制度

単位の一般的な計算方法はアメリカの制度に基づいており、基本的に 1 週 50 分あ

るいは 60 分の授業 1 回で、学期として 1 単位とする。BRAC University の場合、13 週を 1 サイクルとして、1 週 50 分 1 回授業で 1 単位、1 週 50 分 2 回授業で 2 単位、1 週 80 分 2 回授業で 3 単位としている。

単位互換 (credit exchange) に関する政府の規定は特にないようである。国内の大学間の単位互換は可能であるが、一部大学を除き明確な制度はなく、あったとしても運用はケースバイケースの形である。ある場合には私立大学間のものが多い。国立大学教員が私立大学で非常勤として教えることにより同じ教員が同じ科目を教えることになるが、それでも国立大学と私立大学間の単位互換や編入は困難である。なお、海外との単位互換に関する方針を現在策定中である。

私立大学の例を見ると、Dhaka International University では、編入に際しては学生が教職員の判断を仰ぐため、ケースバイケースである。BRAC University では、単位互換は卒業に必要な単位数の 50% まで可能である。このため、2 学期間の留学は恐らく可能であるが、3 学期休学しようとするれば除籍され、再入学の必要がある。Presidency University では、他大学に 2 学期在籍後編入可能であり、Stamford University から編入したケースがある。Presidency University は他大学の成績 B 以上の単位を 5 割認める。一方、American International University of Bangladesh (AIUB) では、学科長に申請すれば、他大学単位認定 (単位互換) が 15-20 単位可能である。

(3) 成績評価制度

政府・国レベルの成績の制度・規定等については、UGC の以下の基準が全大学に適用される。

一般的な成績の表記の仕方 (成績一覧)

A	75-79% = 3.75
A-	70-74 = 3.5
B+	65-69 = 3.25
B	60-64 = 3.0
B-	55-59 = 2.75
C+	50-54 = 2.5

C	45-49 = 2.25
D	40-44 = 2.0
F	0-39 = 0.0
(A+ 80% & above = GP 4.0)	

GPA は、UGC の規則により全大学に普及している。Dhaka International University では成績評価基準が共通化され、欠席が 50%を超えると、定期試験受験の資格を失う。Royal University of Dhaka では 2 学期連続の成績不振は警告を受ける。BRAC University では GPA 2.0 以下が 2 学期続くと警告となり、改善しない場合 4 学期目に除籍される。North South University の場合、最初の 2 学期終了後、累積 GPA が 1.0~2.0 の場合、次の 2 学期は猶予期間とされ、累積 GPA が 2 に達しない場合は除籍になる。

(4) 学年暦

学年暦は、AIUB の場合、3 学期制（春学期 1~5 月 18 週、夏学期 5~8 月 12 週、秋学期 9~12 月 18 週、休暇 4 週、計 52 週）であり、18 週の学期の場合：授業 14 週、試験準備 1 週、最終試験 1 週、結果公表 1 週、次学期履修登録 1 週である。一方、BRAC University では、3 学期制（春学期 1~5 月 13 週、夏学期 5~8 月 13 週、秋学期 9~12 月 13 週、各学期の最後に試験の 1 週間）となっている。

(5) シラバス

シラバスについては、アメリカのコースカタログという意味でのシラバスはあり、学位プログラム別に各学年で履修する科目の名称、科目概要と単位数、大学の教育内容や制度、担当教員名が記されている。ホームページでこれらの情報にアクセス可能な BRAC University のような大学もあるが、ダッカ大学の場合多くがリンクできなくなっている。

(6) 認証・評価制度

認証・評価システムに関しては UGC が担当し、評価チームは UGC から 1 名、教育省から 2 名、大学から 2 名で編成され、評価基準には、カリキュラムの妥当性・最

新性、教員の質（資格で判断）、透明なマネジメント、ガバナンス、公平な試験制度、説明責任、規則の遵守などが含まれている。

UGC による大学評価は、教育省・大学教員と協力して行われているが、国立大学に対しては政治化のため画一的であり、政治活動が禁止されている私立大学に対しては柔軟に対応している。私立大学の場合、質保証が予算と関連していないが、レベルの高い学生の獲得に一役買っている。評価システムは依然改善途上にあり、UGC が「アクレディテーション・カウンセル」の設立に向けて準備を行っている。

質の定義もさまざまであり、例えば、私立の University of South Asia では、質の高い教育を妥当な費用で提供することとしている。政府関係者の発言やニュースなどでは、質とは最新の情報や資料・文献に基づく教育を提供することであり、図書館の資料などはすぐ古くなるため、最近の博士号取得者を優先し、またデジタル図書館を必要としている。一方では、就職率、試験合格率が高ければ質が高い、ともしている⁷。

4. 質保証と政治化の弊害

過去、大学・学生・教員の数は増加してきたが、教員当たりの学生数は特に変化なく、混雑した授業の状況は改善していない。学位、単位、成績評価などの制度面はほぼ画一的に UGC により管理されているが、実態は様々な要因により国立大学の質は悪化していると政府や社会から多数から指摘されてきている（University Grants Commission of Bangladesh, 2006）。

質の問題の内部要因としては、大学教員の採用に関するルールが遵守されず、大学が勝手に解釈していることが挙げられている。他の公務員や民間企業との競争から、ベストの人材が確保できないことも要因とされている。国立大学の教員は、低い給与のため、学外のコンサルタントや私立大学での非常勤に力を注ぎ、大学での教育や研究が疎かになっているが、これは教員の評価制度が存在しないことが問題を複雑にしている。たとえ教員の評価制度があったとしても、予算の慢性的不足及び政治化のため、評価をインセンティブにつなげることができない。国立大学では、給与以外の予算支出はほぼなく、研究費はないに等しい。ダッカ大学では非常勤を 2 大学まで正式にできる制度ができており、大学当局は給与補填の心配をする必要がある程である。このように、国立大学の専任教員は地位のために居続け、給与を私立で補うという構

⁷ 2013 年 2 月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。

図が出来上がっている⁸。

質の問題の外部要因としては、国の政治文化が大学の内部にも深く浸透しており、管理運営者、教職員、学生が政党に所属し、政治的活動に活発に参加していることにある。教職員・学生は主に 3 つの政党別（アワミ連盟、バングラデシュ民族主義党、イスラム主義政党）に分かれ、結果として、組織・機能の縦割り、混乱が生じている。政党と学生グループが深くつながっているため、授業中の教室の廊下で学生が、大学の許可なく、政治スローガンを叫びながら行進するという光景が普通になっている。大学の運営を妨害し、ストライキを行い、学期を突然閉鎖させ（学期閉鎖[Session Jam:セッションジャム]と呼ばれる）、3-4年で卒業できるところが6-7年かかることが日常と化しており、「新卒」の25-6歳が珍しくない⁹。

政治化は国立大学において特に深刻で、教員採用・昇進、成績評価、授業評価、その他あらゆる分野に政治が介入し、大学の学術的監督が欠如している。教員の採用・昇進は政治化し、6割は業績に基づき、4割は政党別に行われ、試験、成績評価、授業評価も政治化しているため、学生による授業評価は機能しない。UGC 人事、学長（Vice Chancellor）人事、学会の人事でさえも政治性を帯びている。とりわけ学長人事では、学長選考委員の選任、選挙権の範囲から既に政党をベースにした動きが始まる。政権党が変われば、大学の役職員も入れ替わるのが常態化している。学部長選考も同様である（University Grants Commission of Bangladesh, 2006）。

学生の政治化は通常2年制の後期中等教育レベルから始まり、国立大学の寮に入るにも政党別になっており、寮長、寮生と同じ政党ではないと入れない。理工系トップの BUET は根拠となる設置法がダッカ大学と異なるため。ダッカ大学より政治化の程度が弱い（Menom and Benjamin, 2010）。

このように、質の低下・悪化は、給与の低さと過度の政治化（教育、研究、サービスすべて）が大きな要因となっているが、政治化という現実には変えられない。前述したように、1971年の大学法令で強大な自治権を与えられたことから、誰もコントロールできなくなっている。UGCはこの点、様々な基準は設定しているが、UGC自身も政治化しているため、基準の執行面で困難に直面している。

⁸ 2013年2月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。

⁹ 2013年2月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。通常の学生は留年しても25歳までなら雇用されるが、1971年の独立に功のあった自由戦士（Freedom Fighters）の子供であれば32歳まで雇用される。

そもそも、高等教育の全レベルにおける政治化問題を果たして問題なのか、特徴とすべきか、という論点もあるが、評価する見解もあり、政治化は悪いことばかりではなく、ダッカ大学は独立運動が始まった拠点であり、政治の伝統を持つため、将来と国のことを考える機会を持つ点で肯定的に捉えられてもいる¹⁰。軍事政権から民主政権に移行した1990年以降、国立大学の政治化は強まっている。2013年に入って1971年当時の罪を問う裁判（戦争法廷）では、戦争法廷の判決に不満を持つ勢力がダッカ大学を中心に暴動を起こし、現在も党派間で争いが続いており、大学は混乱している。

5. 大学間交流の政策と実態

(1) 政策・枠組み

同国政府の方針としては国際的流動性（大学間交流）を促進とあるが、包括的、一貫性のある正式な政策はまだない。しかし、2013年教育省がクロスボーダー高等教育プロバーダーに法的枠組みを与える政策案を策定し、私立大学から反発を受けながらも、政府の最終承認に向けて動いている¹¹。なお、国立でもなく私立でもない国際大学として、Islamic University of Technology¹²（1978年設立）、Asian University for Women（2008年設立）、2009年にはInternational Culture University（2009年設立）の3校があるが、政府の監督を受けない。

南アジア全体としては学生交流の枠組みは特に見られない。南アジアでは不信がまだ存在し、バングラデシュ、ネパール、インドは関係は良好であるが、バングラデシュはパキスタンとはまだ過去の遺恨が残っている。しかし、政治問題にもかかわらず、多くのパキスタン学生はインドに留学している¹³。

(2) 交流の実態・具体的事例

まず、学位目的の留学では、バングラデシュの学生がもっぱら海外の奨学金を獲得して海外に行くものが多い。2011年時点で、留学生数は海外へ20,831人、国内へ1,589人である。2011年時点の学位留学の行先のトップ13は以下のとおり（UNESCO

¹⁰ 2013年2月ダッカで行った大学教員へのインタビューより。

¹¹ 2010年の私立大学法により、外国大学や外国大学のブランチキャンパスのバングラデシュでの設置は禁止されている。

¹² 1978年イスラム協力機構（OIC、世界の57か国加盟）の一部として1978年Islamic Centre for Technical and Vocational Training and Researchとして設立され、2000年に現在の名称に変更。

¹³ 2013年2月ダッカで行った大学教職員へのインタビューより。

Institute of Statistics、2013)。

表 1：バングラデシュ学生の学位留学行先トップ 13

順位	留学先 (国)	人数
1	イギリス	4,140
2	オーストラリア	2,656
3	アメリカ	2,596
4	キプロス	2,471
5	日本	1,693
6	マレーシア	1,627
7	スウェーデン	1,146
8	カナダ	1,134
9	韓国	410
10	タイ	394
11	ドイツ	377
12	フィンランド	363
13	インド	345

イギリスは旧宗主国として、オーストラリアは移住しやすいため留学先として人気がある。両国政府はエージェントを使い、バングラデシュの学生のリクルート活動を活発に展開している。短期留学では海外の学生がバングラデシュに来る一方、バングラデシュの学生は学内混乱や資金不足などによりなかなか出国の機会が少ないのが現実である¹⁴。

国際交流としては、海外の大学との協定により、海外大学の教員がバングラデシュに短期間訪れ、授業や共同研究を行い、海外の学生が同国で学習や研修を行うというものが一般的である。国際連携はまだ一方的であり、互恵的なものはこれからである。大学独自の海外協定大学との単位互換の規定については、ダッカ大学はインディアナ大学と協定がある。

私立大学の事例では、North South University がノルウェーのバーゲン大学との共

¹⁴ 2013年2月ダッカで行った大学教職員へのインタビューより。

同学位協定を締結し、教員がバングラデシュに来て授業をしたり、また、フロリダ大学との協定では教員・学生がバングラデシュを訪問している。BRAC University はオタワ大学と協定を持つが、オタワ大学の修士課程の学生がバングラデシュを訪れるというほぼ一方的なプログラムである。この単位互換はカナダ側に任されている。オタワ大学の教員もバングラデシュで授業を行う。Dhaka International University では、コモロ諸島、ネパール、イエメンなどから留学生を受け入れている。交換プログラムや単位互換の制度はない。希望する学生は2学期終了後、海外留学を申請できる。Royal University of Dhaka には交換留学プログラムはなく、資金不足で今後も施行するのが困難であるとしている。Manarat International University では、教員の留学が縁でマレーシアの私立大学と交換協定を結んでいる。

海外の大学と連携して実施する国際プログラムの一般的なタイプ（ツイニング、フランチャイズ、ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー等）としては、以前 BRAC University がタイの AIT (Asian Institute of Technology) とツイニングプログラムを行っていた例があるが、バングラデシュ側の資金不足のため終了した経緯がある。

6. まとめ

同国には総人口約 1 億 6 千万人のうち 18-30 歳人口が約 9 千万人（6 割弱）おり、非常に若い国である。経済成長に伴い、今後高等教育への要求や需要が更に高まることは確実であるが、持続可能な経済成長のためには質保証も同時に不可欠である。

国立大学は、過度の政治化という悪しき伝統も手伝って、改革、質保証には高い壁となっている。UGC も様々な提言をしているが、UGC 自体も政治化に深く組み込まれており、政治対立が近年悪化の一途を辿っている中で、大学の改善のための環境が整うには時間がかかりかかりそうである。この点、国立大学の持つ自治権という強力なものを前向きに使うことは可能である。一方、私立大学は、UGC の質保証があまり機能していないため、質向上のためのインセンティブの明確化が必要である。

世界銀行の高等教育質向上プロジェクト（約 81 億円、2009-15 年）では、成果を上げた大学に対する競争資金の優先配分による改革の後押しを主眼とし、教育データベースの構築と活用、デジタル図書館の整備などを行っている。UGC が実施機関となっているが、実施が大幅に遅延しているため、当初の 2013 年終了を 2 年延長している。

国際交流の前提として、国内の大学の安定と政治化という伝統からの脱却により、適切な環境を醸成することが緊急の課題である。ただ、先進国で推進されている学生の交流や流動性はやはり様々な資源が必要とされるため、政治化の有無にかかわらず、バングラデシュの資金不足が同時に足枷となっている。実施体制として、訪問した大学には国際室あるいは国際担当のスタッフが配置されていない場合が多く、透明性のある諸制度の整備と同時に、制度を運営する人的資源の確保と能力開発も不可欠である。

また、交流枠組み構築に際しては、南アジアはイギリスの植民地という経験を共有しているため、高等教育制度面の類似性、教育での英語活用の普及度などが有利に働くと考えられ、この点、制度や言語の非常に多様な東南アジアより、潜在性を秘めていると考えられる。ただ、教職員と学生が、大学を舞台に制限なき政党活動関与を継続する限り、教育・研究機関としての大学の自治権や裁量も脅かされ、質の改善だけではなく、国際的信用にも何らかの影響を与えることが懸念される。

参考文献

Alam, M., Haque, M.S. & Siddique, S.F. (2007). Private higher education in Bangladesh. IIEP, Paris.

Islam, F. and Mohsin, K.M. (2009). Emerging issues of higher education in Bangladesh: Analysis of demand, problems and trends, 1(1), *Journal of Dhaka International University*, 6-16.

Menom, M. & Benjamin, H.M. (2010). Higher education in Bangladesh: Status, issues and prospects. 30(2), *Pakistan Journal of Social Sciences*, 293-305.

Bangladesh Ministry of Education (2012). Education statistics.

UNESCO (2012). UNESCO country programming document for Bangladesh 2012-2016. Dhaka.

UNESCO Institute of Statistics (2013). Global flow of tertiary-level students.

University Grants Commission of Bangladesh (2006). Strategic Plan for Higher Education in Bangladesh:.

University Grants Commission of Bangladesh (2007). Annual report 2007.

University Grants Commission of Bangladesh (2008). University Grants Commission of Bangladesh: A profile.

本稿は、2012-14 年度日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「アジア高等教育における透過性のある教育フレームワークの構築に向けた比較研究」(研究代表者：堀田泰司)の研究成果の1つである。

なお、本稿作成に当たっては、秋庭裕子氏より貴重かつ有益な助言をいただいた。ここに厚く御礼を申し上げたい。